

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1005
施設名	もりの聖愛保育園
施設所在地	町田市森野4-8-10
法人名	社会福祉法人やすらぎ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木アート

<テーマの設定理由>

園庭にある大きな桜の木や、木でできたウッドデッキなど、園には木に親しめる環境が整っています。日常の中で、落ち葉や枝を拾って集めたり、木の表面を触って確かめるようなこども達の姿がよく見られます。また、取り入れ始めた木工活動などの創造的な取り組みにも、こども達はキラキラした目で楽しんで取り組んでおり、木に対する親しみや関心がより深まっていることが感じられます。こうした関わりを出発点に、木という自然物をより深く感じ、木を使って自分を表現する活動へとつなげていくことを目指し、「木アート」をテーマに設定しました。

2. 活動スケジュール

- 12月 ①木の素材にふれる体験
②木の素材であそぶ体験
③木の素材で作品づくり
- 1月 モザイクアートの計画会議
モザイクアートの壁制作
- 2月 モザイクアート制作①設計編
モザイクアート制作②完成編

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

模造紙、ペン、様々な木の素材、ノコギリ、紙やすり、丸太、ポスカ、水彩絵の具、表現の壁、モザイクアート用木パーツ、ボウル、木工ボンド、記録用タブレット

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

木の素材に触れる体験を通して、重さや硬さ、手触りなどの違いを感じながら興味を深めた。本クラスはこれまで3年間にわたり木育活動に取り組んできた経験があり、子どもたちは木に親しみをもって関わる姿が見られた。

その後、ノコギリや紙やすりなどの道具を使い、木材を切ったり削ったりする経験を行い、素材への理解を広げた。

さらに、木片に色を付けるなどの表現活動を取り入れながら、素材を活かした作品づくりへと発展させた。モザイクアートの制作では、大きな絵を小さなパーツで埋めて表現することへの理解が当初は難しい様子も見られたが、活動を重ねる中で子ども同士が声を掛け合いながら理解を深め、協力して一つの作品を完成させる姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「この木いいにおいする」「ツルツルになってきた！」など、木の手触りや匂いに気づく様子が見られた
- ・「なかなか切れない!」「先生ここはどうやったらくつつくの?」と、制作に試行錯誤する姿があった
- ・「ピンクにしたい」「同じピンクでもちがうね」と、色や表現を自分で選ぶ様子が見られた
- ・「ここ空いてるよ」「こっちに貼ったらいいんじゃない?」と、友だち同士で声を掛け合いながら制作する姿があった
- ・「一緒にやろう」「それいいね!」など、互いの考えを受け入れながら関わる様子が見られた
- ・「まだできる!」「もうちょっとやりたい」と、集中して取り組もうとする姿があった
- ・完成後には「できた!」「見て!」と達成感や満足感を表す様子が見られた



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

こどもたちは木の素材や道具にふれながら活動に取り組み、手触りや扱いやすさを感じながら制作を進めていた。絵の具の活動では、「もう少し薄くしてみよう」「違う色を混ぜてみよう」と試しながら、同じピンクでも濃さや色味の異なる複数のピンクを作る姿が見られ、色へのこだわりや工夫が感じられた。こうした試行錯誤の過程を大切に、答えを示すのではなく「どうしたらいいかな」と問いかけることで、子ども自身が考えて進められるよう関わった。

また、「ここに置いたらどう?」「この色こっちにしよう」など、友だち同士で声を掛け合いながら配置や色を考え、やりとりを重ねて作品を作り上げていく様子が見られた。必要に応じて関わりをつなぎながら、子ども同士の対話が広がるよう見守ることができた。

モザイクアート制作では、最初は全体のイメージをもつことに難しさも見られたが、周囲の様子を見たり言葉を交わしたりする中で、少しずつ理解しながら取り組む姿が見られた。無理に進めるのではなく、一人ひとりの理解やペースに合わせて声をかけることで、安心して参加できるよう配慮した。

今後も木の素材に触れながら、試したり工夫したりする経験を大切に、子どもたちの表現を支えていきたい。